



メーデー集会がたくさん働く人たちの参加で行われました。今年は90回の記念すべき集会です。実行委員会を代表して、布施辰夫地区労連議長が「改悪された労働基準法について触れるとともに、「なによりも平和を希求していく」と力強く決意表明。市民連合共同代表の馬場秀幸弁護士は「県議選結果は残念でならない。確実に言えることは、草の根で頑張らなければならないということ」と述べ、参院選に向けての決意を語りました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.625 2019年5月12日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)

平和といのちと人権を！5・3憲法集会に65000人が参加 4野党党首が一堂に 市民と野党の共同で改憲勢力に審判を

日本国憲法が施行されて72年となる5月3日、安倍政権による9条改憲に反対する「平和といのちと人権を！5・3憲法集会」（主催＝同実行委員会）が、東京江東区で開かれました。集会には、過去最高となる6万5千人が参加。4野党1会派（日本共産党・立憲民主党・国民民主党・社民党・沖縄の風（参院会派）の代表が勢ぞろい、衆院会派『社会保障を立て直す国民会議』と玉城デニー沖縄県知事がメッセージを寄せました。

主催者代表の高田健さん（総がかり行動実行委員会共同代表）は「市民と野党の共同の力で今国会での改憲発議を阻止し、参院選で改憲勢力を打倒そう」と呼びかけました。作詞家の湯川れい子さんは「戦争経験者として、憲法9条を守るために残りの人生をかけたい。憲法に自衛隊を書き込むというインチキを許してはいけません」と訴えました。



平和への思い新たに

「直江津空襲と平和を考える会」が集会



参加者の一人、杉みき子さんが平和への思いを語る

空襲の惨事を語り継ぎ、二度と戦争を起こしてはならないという誓いをする集いが、被災地の黒井公園で行われました。集いには30人ほどの市民のみなさんが集まって往時を偲び、反戦の誓いを新たにしました。

集会に参加した杉みき子さん（児童文学作家）は、「戦争が終わって、夜、明かりがついていることが一番の印象だった。戦争中は、この戦争は正義のためにしているたいへん立派なことと思われていた。戦後、いろいろな人や本と出会い、語り合っ、平和が一番ということがわかってきた。その後、児童文学を始めたが、書くことによって平和の大切さを表したいという思いを持っている。今、戦争への動きには敏感にならなければならないと思う。また、戦争のことを多くの人に伝えていかなければならない」と切々と語りました。



日本共産党議員団 ● 5月18日(土)18時半～

市政報告会のご案内

頸城希望館第2会議室

お誘い合わせてご参加ください